

平成30年度 ソニー幼児教育支援プログラム

「科学する心を育てる」

～好奇心や探究心を育むための環境構成，教師の援助を考える～



京都市立中京もえぎ幼稚園

目次

I.	はじめに	1
1.	昨年度までの取組	
2.	「科学する心を育てる」についての考え方と取組のテーマ	
II.	実践事例	3
1.	とらえる	
(1)	3歳児 面白いと思ったら繰り返す	
(2)	4歳児 繰り返す中で新たな試しが生まれる	
(3)	5歳児 目的を共有して探究が深まる	
2.	共に創る ～学校運営協議会「もえぎティンクル」や地域との連携より～	
(1)	学校運営協議会「もえぎティンクル」との連携 ～「和食」の「ほんまもの」体験～	
(2)	高等学校との連携 ～シャボン玉研究所の「実験」～	
3.	つなぐ ～子どもの心をつなぐ幼小接続～	
(1)	d児の幼児期の好奇心や探究心の育ち	
(2)	1年生になったd児の授業の様子からとらえた幼児期に育まれた心の育ち	
(3)	小学校教員との協議より	
III.	まとめ	17
1.	実践の全体考察	
2.	考察に基づく課題と今後の方向性・計画	



「高くなった」



「ダンゴムシ、発見」



水遊び,「気持ちいい」



新聞紙のプール,「気持ちいいよ」



絵具遊び,「不思議な色」

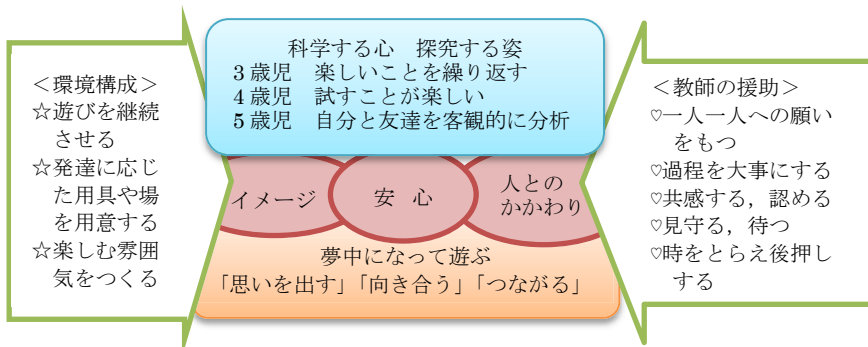


エンドウマメ,
「重さどれくらいかな」

I. はじめに

1. 昨年度までの取組

平成28、29年度を取組で、子どもたちが「思いを出し」「向き合い」「つながり」ながら、夢中になって遊ぶ中で、安心感をもち、人とかかわりを広げ、イメージをもって創造性豊かに遊ぶ経験が「科学する心」を育むこと



がわかった。さらに好奇心をもって探究する姿を各学年でとらえ、子どもが感動を体験していくことができるよう、教師が願いをもって支えることで、子ども自らが過去の自分自身を乗り越え好奇心や探究心が広がり深まっていく事が明らかになった。さらに、園庭の自然環境を生かすことや発達に応じた用具や環境構成、自分たちで創り出しみんなで楽しむ雰囲気が大事であることがわかった。2年間の取組の中で「科学する心」がどのように育まれるのか、子どもたちに大事な経験や環境構成、教師の援助について、まとめることができたのは大きな成果である。

また、昨年度、地域の自然環境の更なる活用、栽培に関する計画の見直しなどが、課題となったが、畑の栽培物の調理など、保護者や地域の大人の力を借りることで、生活への連続性が生み出され、より豊かな経験となった。これまでも保護者や地域、本園に設置している学校運営協議会「もえぎティンクル」と協力し保育してきたが、より積極的に家庭や地域を巻き込み、社会を担う子どもを共に育てる視点をもち、幼稚園の指導計画を見直していくことの重要性を感じた。

また、この2年間で行った優秀園実践提案研究会には、様々な就学前施設や他校種の教員の参加があり、好奇心をもち探究している姿や主体性のとらえ方、夢中になって遊ぶための環境構成や教師の援助などについて協議できたが、特に小学校以降の教員に対して、わかりやすい発信や共有については課題が残る。

2. 「科学する心を育てる」についての考え方と取組のテーマ

幼児期の「科学する心」の育ちについて地域や学校、学校運営協議会「もえぎティンクル」と願いを共有し、共に子どもたちが好奇心や探究心を育む豊かな体験をすることができるようにするにはどのようにすればよいか下記のように考えていきたい。

(1) とらえる ～幼児の実態と願いより～

子どもたちの様子から、友達とかかわりが希薄なのではないか、先生と一緒にないと遊ぶことができないのではないかと、自分たちで何とかしようという気持ちがもてないのではないかとといった姿が見られる。子どもたちには、安心感をもち安定した幼稚園生活を送り、自分の思いを出し自己発揮し（「思いを出す」）、したいことにじっくり取り組み（「向き合う」）、友達とかかわる喜びを感じ（「つながる」）夢中になって遊んでほしいと願っている。「身近な環境にかかわり（好奇心）、自ら願いをもち向き合おうとする（探究）心」を「科学する心」ととらえ、好奇心や探究心がどのように育まれるのか探りたい。そのような姿をとらえ、エピソード記述したものより、地域や学校に発信し共有することを意識し、子どもの心の動きを「幼稚園教育において育みたい資質・能力『知識及び技能の基礎』『思考力、判断力、表現力等の基礎』『学びに向かう力、人間性等』（幼稚園教育要領）の視点でとらえ、好奇心や探究心の育ちについて考察する。

(2) 共に創る ～学校運営協議会「もえぎティンクル」や地域との連携より～

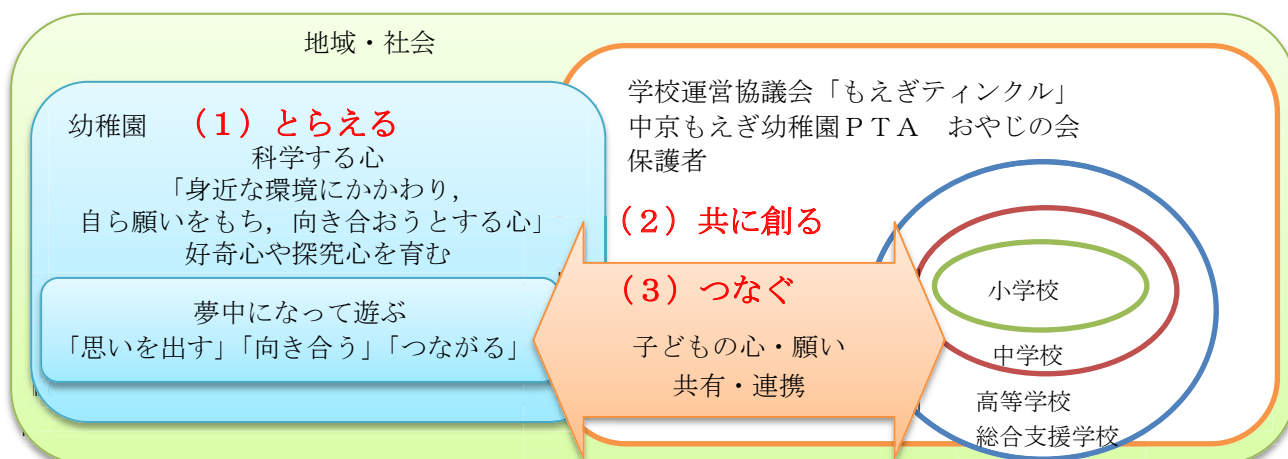
本園は、京都市中京区にあった6つの公立幼稚園が、保護者・地域住民の幼児教育の充実活性化を願って統合され、平成12年に開園した。統合以前のそれぞれの幼稚園は明治2年に創設された番組小学校に隣接し、歴史と伝統を誇り、長年地域の方々によって学区のシンボルとして親しまれてきた。平成18年には、「子どもたちにより豊かな体験を」と願い、学校運営協議会「もえぎティンクル」を設置した。その協力により、子どもたちは、祇園祭や茶道などでゲストティーチャーを招いて「ほんまもの」の体験ができている。子どもたちは地域に根ざした伝統文化や地域に親しみ、地域の人々の温かさや心意気に触れることで、わが町・地域を愛し、自分も愛されていることを実感している。子ども一人一人が地域を愛する町衆となっていくことを地域の方も願っている。

また、発足当初の保護者の得意分野でゲストティーチャーとして保育にかかわる（絵本の読み聞かせやミニコンサートなど）パパママティーチャーが発展し、保育者として保育参加するパパママティーチャーとして子どもにかかわる機会を設けている。保護者と幼稚園とが子どもの育ちや幼稚園教育の意図や教師の援助などを共有したり、保護者が子育てを振り返ったり、子どもたちは、様々なパパママティーチャーとのかかわりで遊びが広がったりしている。

新しい幼稚園教育要領の理念である「社会に開かれた教育課程」について、これまでも地域ぐるみの教育を推進してきているが、より確かなものにしていきたい。これまで伝統文化では地域や学校運営協議会「もえぎティンクル」と共に「ほんまもの」の体験を子どもたちが経験してきているが、科学する心を育む「ほんまもの」の豊かな体験を共に創り、好奇心や探究心を育むためには、どのようなことが大事なのか考えたい。

(3) つなぐ ～小学校との連携より～

近隣の小中学校とも中学校を核として、1つの中学校、3つの小学校と本園とが、4校1園として連携を深め、交流や連携を互いの教育課程に位置付け、継続的に行っている。進学先の一つである高倉小学校とは平成28年度、幼小の円滑な接続について協同研究を行い、幼児期に夢中になって遊ぶ姿を通して育みたい力から接続期カリキュラムの柱を導き出し、その理念を小学校と共通理解した。平成29年度は本園が隣接する京都市子育て支援総合センターこどもみらい館の研究プロジェクトとして保幼小の接続において心の育ちの連続性について研究を進めてきた。本論文では、平成28年度論文に掲載の抽出児について、論文に掲載のエピソードと、小学校での姿を幼稚園の教師がエピソード記述したものを、「幼稚園教育において育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点で考察し、好奇心や探究心の育ちの連続性について考えたい。



Ⅱ. 実践事例

1. とらえる

(1) 3歳児 面白いと思ったら繰り返す

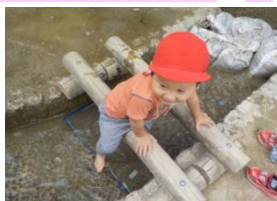
事例① 自らものにかかわり取り入れてやってみようとする

幼稚園教育において育みたい資質・能力＜知識及び技能の基礎・思考力、判断力、表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等＞

《ここに乗りたい！》 平成30年6月5日(火)

園庭の砂場を見ると、A児が①波板を持って立っていた。何をしようと思っているのだろうと思い教師が「Aちゃん何持っているの？」と聞くと「こっち来て」と言い砂場横の小川まで行く。そして溜まった水を見てから②教師の顔を見る。その行動から板を水につけていいものか戸惑っているのかと思い「Aちゃんこれどうしたいの？」と聞くと「③ここに乗りたいねん」と言った。教師が「④面白そう！乗れるかな」と言うとA児は⑤すぐに板を水に浮かべた。教師が「浮かんだ！」と言うとA児は靴を脱ぎ板の上に乗った。板はすぐに沈みA児は残念そうな顔をした。教師は「わあ、沈んじゃった。どうしたら浮かぶかな」と言った。A児は一瞬残念そうな表情を見せたが次の瞬間には板を踏む感触が気持ちよかったのか、水が気持ちよかったのか、嬉しそうに⑥足踏みを始めた。教師「⑦お水じゃぶじゃぶ気持ちよさそう」と言う。その姿を見て、小川に来たばかりのB児とC児もA児の周りに⑧集まった。B児が教師に「これなに？」と聞くので、どう答えようか迷いつつ「Aちゃんが持ってきたはってん。お舟みたいやわあ」と当初のイメージを答えた。するとB児も⑨板に乗り嬉しそうな顔を見せた。⑩C児は隣で水遊びを楽しんだ。

そして教師が場を離れ戻ってくるとA児が小川に掛かっている橋にまたがり⑪板に乗っていた。教師を見つけるとA児「⑫A乗れてん」と言う。体重がかからず、板は先ほどより浮いていた。教師が「すごい！Aちゃん号完成やな～！」と言うと、A児は⑬嬉しそうに笑っていた。



〈子どもの心の動き〉

A

- ① やってみたい
↓ (好奇心の芽生え)
- ② 先生の顔を見る
↓ (確認)
- ③ やってみたい
↓ (好奇心)
- ④ 先生が共感してくれた
↓ (安心)
- ⑤ やってみよう
↓ (試行の始まり)
- ⑥ 楽しい
↓ (喜び)
- ⑦ 気持ちの代弁
↓ (嬉しい)
- ⑧ やってみたい
↓ (好奇心の芽生え)
- ⑨ 面白い
↓ (満足)
- ⑩ 楽しい
↓ (喜び)
- ⑪ 新たな試し
↓ (思いつき)
- ⑫ できた！
↓ (実現の喜び)
- ⑬ 先生が共感してくれた
↓ (達成感)

B

C

[考察]

A児が波板を見つけて、「ここに乗りたいねん」と言ったことから、幼児が「やりたい」と思うことのできるような環境を用意しておくことが大切だと考える。また、A児は「乗りたい」という強い思いがあったからこそ最終的に「乗れた！」と実現を喜び、満足感をもつことができた。このことから幼児の何かを「したい」という強い思いが、試行錯誤をする姿や探究心を育むことにつながっていくと考える。幼児が好奇心をもち何かをやろうとした瞬間を見逃さず、その思いを教師が受け止め、後押ししてその思いを確かなものにすることや、体験を通して得る幼児の様々な思いを代弁し、嬉しい気持ちや楽しい気持ち、残念な気持ちなどに共感することで、好奇心が育まれる。また教師が幼児と共に遊びを楽しむことで、周りの幼児の目にも入りやすく、友達のしていることに興味をもつきっかけになると考える。

事例② 先生のやっていることを自分もやってみようとする

幼稚園教育において育みたい資質・能力＜知識及び技能の基礎・思考力、判断力、表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等＞

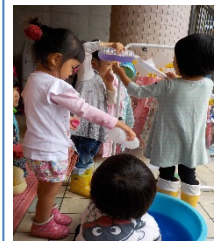
《 シャボン玉がくっついた！ 》 この日は初め、数人が泡遊びをしていたが、だんだんと子どもたちは減っていき、D児とE児が残って遊んでいた。教師もマヨネーズの容器の口にシャボン玉の膜を作って遊んでいた。D児とE児はそれに関心を示し、①「ほしい！」と言った。二人は交互に教師が作った②シャボン玉の膜を触って、消える様子を見て楽しんでた。しばらく教師が作るシャボン玉で遊んだ後、D児は③「Dちゃんも作りたい！」と言った。教師は「泡をマヨネーズの口に乘せて作るんだよ」と言った。D児は④なかなか作ることが難しく、苦戦していた。しかし、しばらくして「先生見て！⑤できた！」とD児が叫んだ。D児を見ると、きれいな大きな膜が容器にできていた。D児は教師が少し目を離していた間に一人でシャボン玉を容器にくっつけることに成功していた。教師がしていた方法では難しくて、できないだろうと思っていたので、「Dちゃんどうやって作ったの？」と聞いてみた。すると、「あのね、⑥ぶくぶくつけてしてからその泡をくっつけたの！」とD児は説明をした。やはりD児は教師がした方法とは別の方法を自ら作り出していた。D児があみ出した方法は、色水と泡が入った観察ケースに空のマヨネーズの容器を沈めてぶくぶくと泡を作り、その泡をマヨネーズの容器ですくいあげてくっつけるというものだった。「Dちゃんすごいね！」と教師が言うと、⑦「Dちゃんすごいでしょ！」とD児は得意げに笑っていた。⑧「先生もやってみて！」と言うので実際にしてみると、教師がしていた方法よりも簡単にシャボン玉をくっつけることができた。⑨そのあともD児は次々とシャボン玉の膜をマヨネーズの容器に上手に付けて、シャボン玉を膨らませたり、割ったりすることを楽しんでいた。	平成30年6月5日（火）  	〈子どもの心の動き〉 ① ほしい！ ↓（興味） ② 触ってみる ↓（心が動く） ③ 作りたい！ ↓（好奇心の芽生え） ④ どうしたら作れるかな？ ↓（試行の始まり） ⑤ できた！ ↓（達成感） ⑥ 先生に教えたい！ ↓（気づき） ⑦ 先生が認めてくれた ↓（自信） ⑧ 一緒にしよう ↓（共有） ⑨ 何度もする ↓（繰り返し）
--	---	--

[考察]

D児は教師がしていることに興味をもち、シャボン玉が触ると消えることに心を動かした。また、シャボン玉がマヨネーズの容器にくっついていることやくっついてもなおシャボン玉が消えずにいることが「自分も作ってみたい」とさらに思うきっかけとなったのではないかと考える。D児がシャボン玉をマヨネーズの容器にくっつけることに成功したことは、偶然と自分のしたいことが重なったためではないかと推察する。D児は空のマヨネーズの容器を石鹸の入った水の中に沈めると、ぶくぶくと泡がたくさん出てくることは今までの経験から知っていた。実際、この日もこの行為を何回もしている姿が見られた。この行為を偶然にもシャボン玉をくっつけようとしているときに行い、できた泡を容器にくっつけると「自分が今、したいことができる」と気づくことができたことで達成感や満足感が得られる結果となった。3歳児では、先生がやっていることを自分もやってみたいという姿が度々見られる。今回の事例も教師がモデルとなり、好奇心や探究心が生まれるきっかけとなったことがうかがえる。また、様々な用具がそろっている環境が色々な試しができることにつながっていると感じる。そして、マヨネーズの容器や観察ケースは透明であることによってより視覚的に試しを楽しめていると考える。

幼稚園教育において育みたい資質・能力＜知識及び技能の基礎・思考力、判断力、表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等＞

F	J		G	H
① やってみたい	↓	(興味)		
② できた	↓ (満足)			
③ 予測と違う	↓ (気づく)	④ やりたい	✓(試行の始まり)	
	↓		⑤ できた	
⑥ 面白い！	(わかる・驚き)		(満足)	
↓				
⑦ どうなるかな	↓ (新たな試行)			
⑧ できないなあ	↓ (気づき)			
⑨ どうか	↓ (思い付く)			
⑩ どうなるかな	↓ (期待)			
⑪ やってみたい！	(やった!)			
↓				
⑫ 声かけてくれた				↓
				(嬉しい)
				⑬ できた！
				(喜び)
⑭ もっとやってみたい				↓
				(面白い・やってみる)



5

事例④ やってみたいことで面白い事象と出会い、さらにやってみようとする

幼稚園教育において育みたい資質・能力＜知識及び技能の基礎・思考力、判断力、表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等＞

《 ほら！ここから泡出てきた！ 》 この日、K児は泡遊びで数人が遊んでいる姿に①興味をもってやってきた。教師がKちゃんもする？どれがいい？」と聞くと、②K児はお玉とカップを選び、泡をすくいカップに入れてみた。しかし、カップが一杯になると③「もういい」と用具を手放した。教師はせっかく自分でやってみたいと思った遊びを見つけたが、あまり本人が心を動かすほど楽しいと感じることが難しかったのだと感じた。それまであまり泡遊びに来ることが少なかったK児だったので、もう少し泡遊びでも楽しいと感じることはできないかと考え、ペットボトルを繋げて三叉にしたものをK児の目の前に持って行った。教師は「Kちゃん、こんなもあるよ！見ててね」と言い、泡を入れて見せた。泡はペットボトルに溜まり、さらに泡立った。それをみたK児は④「やる！」と、お玉で何度も泡を入れてみた。教師は「楽しいね！いっぱいになりそう！」と話しながら、入れた泡に変化が見られると、K児はさらにやってみたいと思うかもしれないと思い、教師も一緒になって大量の泡を入れ続けた。すると、ペットボトルの注ぎ口から、泡がうねりながら出てきた。それを見たK児は、⑤目を真ん丸にしたまま一瞬表情が止まった。そして、⑥教師の方を振向き、「でてきた！ここから泡でてきた！」と興奮した様子で嬉しそうに話した。教師も「ほんまや！いっぱいでてきた！」と一緒に喜んだ。⑦「もっとする！」と言い、K児は何度も泡を入れ続け、泡が出てくる様子を楽しんでは、「ほら！すごい！」と教師に見せていた。そのたびに教師も一緒に喜んでいて、そのうちに泡よりも水分が多くなり、真ん中のペットボトルの注ぎ口からは水が溢れた。今までと違う溢れ方をみたK児は⑧「ほら！」と言葉にならない驚きを教師に伝えた。教師も「泡じゃなくなった！面白い！」とK児の驚きに共感した。K児はその後⑨何度も泡や水をすくっては入れ、水や泡が溢れる様子を楽しんだ。	平成30年6月23日（土） 	〈子どもの心の動き〉 ① 何やっているの？ ↓（興味） ② やってみよう （試行の始まり） ↓ ③ あまり面白くない ↓（興味減退） ④ やってみたい！ ↓（強い好奇心） ⑤ 泡が出てきた！ ↓（驚き） ⑥ これすごいよ！ ↓（伝えたい） ⑦ もっとやりたい ↓（意欲） ⑧ 違うのが出た！ ↓（新たな驚き） ⑨ 楽しい、何度もしたい （繰り返す）
---	---	---

〔考察〕

K児はカップに泡を入れるだけでは今まで経験したことで、自分の思っていること以上のことは起こらずに興味を失ったのだと思う。しかし、新たな環境を目にしたことでやってみようとし、自分が泡を入れると、ペットボトルから泡が溢れるという新たな現象が起こったことに驚いたと思う。やってみると面白いことが起こったことで、K児は心を動かし、何度もやってみようとしたのだと思う。意図せずにやってみたことで、偶然に面白いことが起こり、「やってみたら面白い！」と感じることがさらにやってみようと感じることにつながった。そして、さらにやってみようとしたことで、泡とは違う水が溢れるという、次の新たな事象に出会った。次の新たな事象に出会うことが、さらに何度もやってみようとする姿になった。K児のやってみようとする姿には教師が新しい泡の動きを見ることができるよう、面白いことが起こる用具を考え工夫し、願いをもって環境として用意したことが大きかった。また、教師はK児が興味をもった瞬間を逃さず、どうすればK児がさらに楽しいと思えるかを考えたことで、K児の好奇心につながった。また、K児の驚きを受け止め、共感することで、自分の感じたことをもっと伝えたいという姿にもなり、子どもの心の動きを受け止める援助も大切であると改めてわかった。

(2) 4歳児 繰り返す中で新たな試しが生まれる

事例⑤ やりたいという思いから生まれる考える姿と友達とのつながり

幼稚園教育において育みたい資質・能力<知識及び技能の基礎・思考力、判断力、表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等>

《 もっと水出して！ 》

平成30年5月24日(木)

L児は、井戸水をくみ上げるポンプで友達3人と遊び始めた。L児はポンプの水の出口にジョウゴとホースを繋げて、水を流していた。その様子を見て教師が、「ここすごいね、こうやって



(ジョウゴとホースを繋げて) 水を流してるの？」と聞くと、①L児は嬉しそうに「教頭先生

と一緒にやったんだよ」と話した。友達とポンプを動かす役を交代しながら、長く繋がれたホースの先から水が出てくる様子を見て楽しんでた。L児は、水遊びをする前に友達からもらった球根をもって、②「球根流してみようかな」と言って、ホースの中に球根を入れた。使っていたホースは不透明なため、L児は、③「まだかな」「今どこにいるんやろう？」と言いながら、ホースの出口をじっと見つめていた。しばらく待って、球根が流れ出てきたところを見て、L児は④「出てきた！」と嬉しそうな表情を見せた。⑤L児は流れ出てきた球根を取っては、何度も流しに行った。教師はホースの出口のところでいつ球根が出てくるのかを見ていた。すると、周りで遊んでいた子どもたちが何をしているか興味をもってやってきた。その中のM児が⑥「何してるの？」と尋ねてきたので、教師は「球根が流れてくるんだよ。見ててごらん」と言うと、その様子を見たM児、N児、O児は⑦「ほんとだ！」と言って教師と一緒にじっと出てくるのを待っていた。M児は、その先のポンプにも興味をもち、ポンプを動かすことを楽しんだ。L児は、ホースの入り口と出口を行ったり来たりしながら、なかなか球根が流れてこなかったり、出てくる水の量が減ると、⑧「もっと水出して！」とポンプを動かしている友達に向かって何度も叫んだ。L児から声を掛けられると、交代しながらポンプを動かしていたM児は、⑨一生懸命ポンプを動かした。友達が水を流してくれると、L児は⑩「そうそう」と言って⑪ホースの出口をじっと見つめて球根が流れ出てくることを嬉しそうに見ていた。また、N児とO児も球根が流れてくる様子を見て、⑫「桃の実も流してみよう」と周りに落ちている桃の実を拾ってきて、ホースの中に流した。自分や友達が流した桃の実が出てくると⑬「出てきた！」と嬉しそうに声をあげて楽しんでいた。

〈子どもの心の動き〉

- ① 嬉しい！
↓ (満足)
- ② やってみたい！
↓ (好奇心)
- ③ どうなっているんだろう？
↓ (疑問)
- ④ できた！うれしい
↓ (満足)
- ⑤ もう一回！
↓ (繰り返し)
⑥ なんだろう？
↓ (興味)
⑦ びっくり！
↓ (発見)
- ⑧ もっとこうしたい！
↓ (予測)
- ⑨ わかった！
↓ (受容)
- ⑩ やっぱりそうだ！
↓ (気づき、確信)
- ⑪ できた！(自分の思いが叶う喜び)
↓
- ⑫ 自分でもやってみたい(新しい試し)
↓
- ⑬ これでもできた
(気づき、満足)

〔考察〕

L児のポンプとホースを繋ぎたいという思いが叶い、満足からさらにやってみたいと、次の遊びにつながった。L児は球根を流して遊びたいという強い思いから、繰り返し遊ぶ中でなかなか球根が出てこない、出てくる水の量について考えていた。水の量と流れるもの、流れやすさの因果関係について友達と遊ぶ中で気づいていった。こうしたいという強い思いがもっとこうしたらいいのではないかと探究する姿につながった。また、教師の存在によって興味をもって近づいてきた周りの子どもも、L児が強い思いをもって遊んでいる姿を見て、桃の実を見つけるなど自分なりに工夫しながら一緒に遊ぼうとする姿があった。こうしたいという思いをもって遊ぶ姿が、周りの友達の興味を誘い、友達とのつながりをもって遊ぶ姿につながると思われる。

事例⑥ 偶然の出来事に心を動かしさらに自分なりに試してみる

幼稚園教育において育みたい資質・能力＜知識及び技能の基礎・思考力、判断力、表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等＞

《 魔法のジュース 》

平成30年6月20日（水）

草花の色水遊びを楽しむ姿が見られたので、様々な試しができると思い、前日よりすり鉢を多く用意し、目につくよう、部屋に置いておいた。普段は室内遊びが多いP児だが、登園後すり鉢に興味を示し、園庭に出て、他児の色水遊びを見て、「①どうするの？」と教師に聞いてきたので一緒に花びらを集める。すりこぎでしばらく潰すと、きれいな紫色の色水ができ、



「②見て！」と嬉しそうに教師に伝える。またしばらく潰した後に、机の真ん中に教師が作っておいた泡に何気なく手を伸ばして色水に混ぜた瞬間、紫から一瞬にしてきれいなエメラルドグリーンに変わる。③「わあ！」と思わず声がもれパツと表情が明るくなり、隣にいた④教師の方を見る。教師と一緒にいた他の教師も思わず驚き、「うわあ！すごいなあ！」「きれいやなあ！」と感動を共有する。



P児は⑤泡をもっと足したり、薄まってくると自分で花びらを取ってきてもう一度作ったりして、色の変化を楽しむ。教師が「魔法みたいやなあ」と言うと、P児は「⑥魔法のジュースやで」と嬉しそうに答える。そのやり取りを聞いていたQ児が「Qくんも魔法やりたい」と来ると、P児が⑦自信たっぷりに教える姿が見られた。また、R児は泡に砂を混ぜてトロトロの泡と泥の感触を好み、ひたすら泡と砂を混ぜて遊んでいる。教師が「おいしそうだね」と言うと、R児は「チョコレートクリーム作ってるの」と答える。P児は、そのやり取りやR児の姿を見て、「⑧今度はこれ（砂）入れたらどうなるやろ？」と教師の方を見ながら笑い、色水に砂を混ぜる。茶色く変わると「こんな色～」と笑い、⑨今度は泡を足す。白っぽく濁り、「⑩見て！こんなんなった！」と嬉しそうに教師に伝える。「コーヒークリームみたい。おいしそう！」と答えると、満足気に笑い、ペットボトルに集める。降園時、嬉しそうに母親に見せる姿があり、教師が「魔法のジュース作ったな～？」と声をかけると、「すごいで！匂ってみ！」と砂と泡のペットボトルの蓋を開けて教師の鼻に近づける。「いい匂い～」と答えると、笑いながら「⑪すごいやろ？砂なのにいい匂いする～」と嬉しそうに言う。

〈子どもの心の動き〉

- ① やってみたい
↓ (興味・好奇心)
- ② できた！嬉しい！
↓ (満足)
- ③ びっくり！きれい！
何で？！ (驚き・感動・不思議)
- ④ 先生に見せたい！
↓ (共有)
- ⑤ もっとやろう
どうなるかな？
↓ (意欲・工夫)
- ⑥ 自分でこんなにすごいのができた！
↓ (自信)
- ⑦ 教えてあげたい
↓ (友達へ伝える)
- ⑧ 面白そう
やってみよう
↓ (友達からの刺激)
- ⑨ どうなるかな？
↓ (予測)
- ⑩ そうなのか
↓ (新たな気づき)
- ⑪ 匂いも不思議
(新たな発見・喜び)

〔考察〕

戸外の環境を部屋に置いたり、作っておいた泡や遊び途中の状態を置いたりなど、やりたいと思える環境を用意したことで、すり鉢や友達の姿に興味をもち、やってみたいと好奇心が芽生え、自分から遊び出していた。また、何気なく入れた石鹼水で化学反応が起きるという偶然の事象に驚きと感動など様々な感情が生まれ、教師がその思いを共有したことで、もっとこうしたいとさらに意欲や探究心が芽生えた。また、他の色の花を潰したり砂を混ぜたりする友達の姿や教師とのやり取りに刺激を受け、自分の遊びに取り入れる姿や、自然物の不思議さに触れ、色の変化の面白さや綺麗さ、匂いなど、心を動かしながら、感じたことや得た知識を教師や友達に伝えたりする姿もみられた。伝えたい時にすぐに伝えられる場で教師が見守り、感動や不思議さなどに共感したり、していることを認めたりすることで、自信や満足感を感じ、さらに興味や遊びを広げられる。自分の気づきも確かなものになり定着していく。その後も色水と泡遊びが毎日続き、化学反応が起きるペチュニアの花とそうでない花に気づき、自分で考えて色を作ったり変えたりなど、気づきや発見をしながら自分なりに表現していた。

(3) 5歳児 目的を共有して探究が深まる

事例⑦ 1つの目的に意見を出し合って遊びを進め、自分たちなりに評価し、さらに遊びを進める

幼稚園教育において育みたい資質・能力<知識及び技能の基礎・思考力、判断力、表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等>

《一緒に流そう》

平成30年6月19日(火)

5月に砂場用にきた砂山で水を流して遊んでいたのですが、築山と組み合わせてできないかと考え、砂の山を築山の前に5歳児みんなで移動した。築山から砂山、砂場へと樋やホース等を使って水を流すことを楽しみ始めた。

登園してくると「①砂場に行くてくる！」と遊び始め、徐々にたくさんの友達が集まり、築山の上からホースや透明の筒を繋げ始めた。砂場の方では、さらに樋でコースを繋げ、繋ぐ所にはジョイントを付け、ホースの先には水を入れやすいようにジョウゴをつけ、山の上から下まで繋がるコースを作った。「できてきた。水流そう！」と声を掛け合い、②「水汲んできて！」「水流れてきたか見とく」と役割



分担し、小さなボールを水と一緒に流す。水と一緒に流したら③勢いよくボールが転がっていくだろうと思っていたが、実際に水を流してみると、ボールはゆっくりと転がっていった。その様子を見て、「もう一つ水を流そう！」「繋げよう」と横にコースを作っていたS児に声をかけ、④コースを繋ぎ始めた。長いホースの先に、同じように透明の筒があったので、その透明の筒を樋のほうに向け、「水を流そう」と声を掛け合い、水を汲みに行ったり、繋がっている所を見たり、⑤自分たちで役割を分担し水を流すことになった。水を持ってくるとすぐに水を流したくなり、S児が先に自分の使っていたホースに水を流した。すると、さっきと同じようにボールはゆっくりと流れていく。そこでT児「待って。一緒に流そう」と言い、⑥2人で共に水を流すことを提案した。S児は「待ってて」と急いで水を汲みに行った。他の子どもたちも待っている間にコースのジョイントが⑦離れていないかを点検したり、少し離れてコースを見てみたり、ボールが勝手に転がっていくように砂を固めてボールを置くことも発見したりしていた。S児が戻ってきて、T児の「せーの」の⑧声に合わせて2人で水を流した。すると、思っていたように⑨勢いよく水が流れボールも転がった。下で見ていた子どもが「転がった！」と大きな声で伝え、⑩「やったー！」と喜んでた。そして、その後も何度も繰り返し楽しんでた。

《うまくいかなかった》

平成30年6月21日(木)

T児たちは、⑪一本のコースで水を流そうとしていた。透明の筒から始めようと築山の上に持って行って水を流すが、水の重みで筒が滑り、うまく下まで水が流れていかなかった。何度も筒を引き上げてコースを作り直すのが、どうしても筒が安定しない。⑫「ここに砂固めてみよう」「バケツでおいでみる」と工夫をするが、うまく流れることなく片付けの時間になった。⑬T児「今日はうまくいかなかったな」S児「うまくいかへんかった」T児「でもまた明日はうまくできるわ」と言っていた。

降園時、みんなで今日の遊びを話し合った時にT児たちは⑭「今日は上手くいきませんでした」「どうしたらいいやろう」と友達に聞いた。するとU児「上はホースにしたらいいねん」教師「そうなの。どうして？」と聞くと「すべらへん」と答えた。

〈子どもの心の動き〉

- ① やってみよう
↓ (意欲)
- ②一緒にやろう
↓ (目的の共有・協力)
- ③ きっとできる
↓ (予想)
- ④ 次はこうしてみよう
↓ (新しい考え)
- ⑤一緒にやろう
↓ (目的の共有・協力)
- ⑥ こうしたらいいはず
↓ (予想・言葉による伝え合い)
- ⑦ こうしておこう
↓ (試行錯誤・工夫)
- ⑧一緒にやろう
↓ (相手の気持ちの受容・協力)
- ⑨ 思った通り！
↓ (予想・予測)
- ⑩ できた！
↓ (発見の喜び)
- ⑪ やってみよう
↓ (意欲)
- ⑫ こうしてみたら
↓ (試行錯誤・工夫)
- ⑬ 今日は駄目だった
↓ (葛藤・自分への向き合い)
- ⑭ 話してみたい
↓ (言葉による伝え合い)
- ⑮ そうか！
↓ (新しい考えを見つけた喜び)

⑮ T児「ありがとう」と答える姿があった。

《 みんなに知らせよう 》

平成30年6月22日（金）

午後から、T児たちは昨日友達に教えてもらったことを思い出し、⑯ホースを使って水を流すコースを作り始めた。ホースを山の上に持っていき、その次に透明の筒を繋げ、樋を繋げた。⑰水がしっかりと流れることを確認し、次は透明の筒にボールを入れてみたT児。丸いボールは水を流す前に転がった。そこで、⑱六角球を持ってきて、ゆっくり置く。すると、筒の中に止まって、水を流した時に流れることを発見し、何度も置き方を工夫しながら楽しんでた。「やったね」と声をかけると、T児「みんなにできたことを知らせたい」と降園時に⑲「ホースから始めたらいまよくできたよ」と発表をした。その言葉を聞き、先日提案したU児も笑顔だった。

《 成功！ 》

平成30年7月12日（木）

時間を見つけては遊び続けていた子どもたち。⑳築山の上の小屋から水を流してみようと考え、樋を繋げてチャレンジを始めた。繰り返し遊んできたことで、徐々に繋ぎ方のコツを見つけ、㉑樋はたくさん重ねると滑りにくくなる・樋からホースに水を流したいときには樋の先にジョウゴをつけてその先にホースをつけたらいいこと・ホースを使ったらコースを思い切り曲げて繋げることができること・高いところから水は流れていくので、少しでも砂場のおもちゃで段をつけると水が流れやすくなること等に気づき、㉒友達同士で話し合い、工夫をしたり、作る場を分担したりしながらコースを作り上げた。その間にはクラスの友達が見に来る姿もあり「できてる?」「もうちょっとでできる」「水流す?」「まだここができてへんから待って」と㉓声を掛け合い、知らせ合っていた。きちんと水が流れるか、㉔樋の角度を友達とのぞき込んで確認する姿も見られた。そして、コースが出来上がってきたころには、自然に水を汲みに行く子どもの姿もあった。そして、V児「いくで!」という声と共に、子どもたちは自分が見たい所に行き、㉕「いいよ」と声を掛け合った。そして「いった!」の声と共に水が流れていくと、途中水が漏れる場所が見つかった。「あっあそこ」とサッと気づいた子どもが㉖「待って!」と修正をする。樋はまっすぐになるように、ホースは先がきちんと繋がるように、高さも調節して「いいよ」の声にまた水を流してみると、今度はうまく最後のゴールのバケツまで水が流れていた。「成功した!」と㉗みんなで喜び合う子どもたちの姿が見られた。



⑯ 昨日のことをやってみよう

↓ (新たな意欲)

⑰ やっぱ大丈夫

↓ (確認)

⑱ 六角球ってすごい

↓ (形の面白さに気づく)

⑲ こうやったら

できた

↓ (発見した喜び)

㉑ やってみよう

↓ (新たな意欲)

㉒ こうしたらこうなる

↓ (規則性・法則性の発見)

㉓ みんなで作ろう

↓ (目的の共有・協力)

㉔ そっちはどう?

↓ (言葉による伝え合い)

㉕ これなら大丈夫

↓ (規則の活用)

㉖ 呼吸を合わせて

↓ (声の掛け合い・協力)

㉗ あっ大変!

↓ (気づき・修正)

㉘ やった

↓ (達成感・共有)

[考察]

意欲をもって遊び始めることで、様々な工夫をしたり、試行錯誤をしたりして遊び続ける姿が見られた。その中で、今までの経験から遊びの展開をある程度予想しながら遊びを進めていることがわかった。遊びの中で子どもたちなりの目的をもっていることで、友達とも共有がしやすく一緒に遊びを続ける姿につながるのではないかと感じた。また、友達と目的を共有して遊ぶ事で、互いの様々な考えに触れ、刺激し合ったり、共に喜び合ったりする経験が生まれ、より工夫をして、新たな目的をもって遊び続けたりする姿につながった。遊び続ける中で予想通りにならないこともあるが、そのことを受け止めることで、友達の意見を聞いたり、今までの遊びを振り返って確認をしたりすることもできた。自分自身と向き合うことも遊びの中で好奇心や探究心を深めていく上で大事であると感じた。また、遊びを進めていく中で様々な気づきを自分のものとして貯め込んでいた。その気づいたことを法則として活用したり、応用したりすることも、徐々にできるようになってきている。

2. 共に創る ～学校運営協議会「もえぎティンクル」や地域との連携より～

(1) 学校運営協議会「もえぎティンクル」との連携 ～「和食」の「ほんまもの」体験～

園庭の畑で採れた野菜で、豆ごはん、カレーなど5歳児が調理してきた。秋の収穫物（大根、米など）で、「和食（日本人の伝統的な食文化）」のユネスコ無形文化遺産登録もあり、もえぎティンクル理事の京料理屋さんにゲストティーチャーに来ていただき、「和食体験」を計画した。

《 切り干し大根を作ろう 》5歳児 平成29年11月2日（木）
5歳児が育てていた大根を、前日に自分たちで育てたラディッシュを収穫した3歳児が抜いてしまった。思いを丁寧に受け止め、大事な大根であることを伝えた。互いの思いを大事にしたいと考え、5歳児に事情を伝え、切り干し大根作りを提案し、大根を切って干した。日に日に「小さくなった」「硬くなっている」と、変化に気づく。「切り干し大根、知っているわ」「食べたい」と、「和食体験」のメニューが1品決まる。

《 パパママティーチャーと一緒に準備する 》5歳児 平成29年12月6日（水）
「和食体験」の前日、パパママティーチャーと一緒に畑で明日の味噌汁に使う大根や九条ねぎを収穫し、干しておいた稲を脱穀し、精米した。「お米が出てきた！」と大喜びで、精米機で米が白くなっていく様子を興味津々に覗き込んでいた。出てきた糠に思わず手を伸ばし、「気持ちいい」「ふかふかしている」と感触を楽しんだ。保護者も子どもと同じく初めての体験を喜んだり、子どもたちの様子から成長を感じたりしていた。

事例① 「ほんまもの」の体験の感動が家庭と地域をつなぐ

幼稚園教育において育みたい資質・能力＜知識及び技能の基礎・思考力、判断力、表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等＞

《 和食体験 お出汁っておいしい 》5歳児 平成29年12月7日（木）	〈子どもの心の動き〉
ゲストティーチャーとねらいや活動について打合せをし、次のように計画する。 ねらい 京料理、和食に親しみを感じる お出汁のうまみを感じる 職人の思いを知る 活動 出汁について話を聞く、出汁を試飲する、切り干し大根と味噌汁の調理を見る、新米のおにぎりを作り会食する	① そうなんだ ↓（初めて知る興味）
まず、昆布出汁と鰹出汁を作っていた。①子どもたちはその様子を真剣に見入り、「いい匂いがする」と話している。②2種類の出汁を飲み比べて「色がついている」「こっちの方が好き」「これ（合せ出汁）は味が濃い」など話していた。	② こうなっているのだ 違うのだ ↓（感じる・発見・知る喜び）
次に切り干し大根の煮物と、味噌汁を調理していただき「大根は薄い拍子切り、さつま芋は厚めに、九条ねぎは小口切りに」「お出汁がきいているから、みそは少し」など教えていただいた。自分たちで握った新米のおにぎりと一緒に昼食に頂いた。	③ 美味しい ↓（喜び）
③「切り干し大根初めて食べた」「お出汁の味がする」とおかわりして喜んで食べ、特別な一日となった。次の日、④保護者が「いつになく子どもがいっぱい話してくれた」と喜び、ゲストティーチャーに直接お礼をおっしゃっていた。様子をドキュメンテーションやホームページで発信することで子どもたちは自分たちの活動を振り返ったり、保護者や地域の方には取組に関心をもってもらったりした。	④ お家の人に伝えたい （言葉による表現）



[考察]

知っている大根が知らない形状になり切り干し大根になることやパパママティーチャーと一緒に準備したことで期待が高まった。調理の様子を目の前で見たり、2種類のお出汁を飲み比べたりなど、「ほんまもの」の体験はにおい、色、味など、子どもたちの感性に響いた。初めて知ることへの好奇心、自分が知らなかったことを知ることの喜び、そして、何より自分たちで栽培、収穫した野菜を板前さんに調理してもらって食べる経験は、自分たちで調理する時とはまた違った、特別な喜びがあった。その感動を家の人伝え、そのことを喜んでくれた。保護者もわが子の思いが嬉しく、ゲストティーチャーに感謝の気持ちを伝えられた。伝えたくなる感動の体験が幼稚園、家庭、地域・社会とをつないだ。

(2) 高等学校との連携 ～シャボン玉研究所の「実験」～

石鹸遊びを楽しんでいた5歳児の子どもたちに、より夢中になって楽しみ、石鹸水で遊ぶことの不思議さを感じ自分なりに探究してほしいと願っていた。材料や用具を工夫していたが、子どもたちの探究を一步進めるためにどのようなことが考えられるか、「ほんまもの」の体験ができないか、地域の京都市立西京高等学校に相談した。幼稚園での石鹸遊びの様子や育ち、好奇心や探究心の育ちなどについて伝え、やり取りをする中で、理科の先生方がシャボン玉のサイエンスショーをしてくださることとなった。幼稚園の希望や願いを改めて伝え、(子どもたちのイメージが膨らむよう、園長先生のお友達が「シャボン玉研究所」にいてそこから来て下さることにしたい・白衣を着てほしい・大きなシャボン玉を見せてほしいなど) シャボン玉研究所の博士により「シャボン玉実験」の計画を進めた。

事例① さらに探究へ導く「ほんまもの」体験

幼稚園教育において育みたい資質・能力<知識及び技能の基礎・思考力、判断力、表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等>

《 シャボン玉研究所から手紙がやってきた 》5歳児 平成30年6月5日(火) シャボン玉研究所の所長さんより園長先生に手紙が届く。「園長先生から泡やシャボン玉遊びを楽しんでいることを聞いたので、実験を見せに行こうと思っている」と書いてあった。それを聞いて、嬉しそうな子どもたち。どんな人が来てくれるかな、どんなシャボン玉ができるのだろうと、①とても楽しみにしている。	〈子どもの心の動き〉 ① 楽しみ ↓ (期待) ② ワクワク ↓ (好奇心) ③ すごい ↓ (心の動き) ④ どうなっているの? ↓ (不思議) ⑤ 「知らない」ということに気づく ↓ (気づく) ⑥ こうしたらどうなる? わかった (新たな興味・意欲)
《 シャボン玉実験を見たよ 》5歳児 平成30年6月8日(金) シャボン玉研究所の実験が行われる遊戯室に入ってくる子どもたちは、足音を立てないように②ゆっくりと静かに緊張した面持ちである。 プログラム1. 科学は魔法?! (導入)・大きいのはどっち?(錯視の実験)・色変わりジュース(化学実験) 2. シャボン玉実験①シャボン液のひみつ・どうやってつくる・弾むシャボン玉 ②かたちのひみつ・三角や星型のシャボン玉はできるか? ③なかみのひみつ・息でふくらます・ふわふわ浮かぶシャボン玉 ④虹色のひみつ・虹色シートで光を見ると?・トンネルの灯りで見ると? 3. 大きなシャボン玉・シャボン玉に入ろう(風が無ければ) 実験の③一つ一つに歓声が上がる。5歳児は、「割れないシャボン玉」や「天まで届くシャボン玉」、「虹色シートによる色の変化」には特に「なんで? ④どうなっているの?」と驚き、子どもたちが入ることができるシャボン玉では「④やりたい」と言っていた。⑤「知らなかった」と、かみしめている姿もあった。最後に⑥博士に質問をし、お礼を言い実験は終わった。	

[考察]

大人も子どももシャボン玉実験にひきつけられ、次々に目の前で起こる謎の現象に興味しっぱなしであった。子どもたちのために高い専門性で考え準備して下さった先生方には、感謝の気持ちでいっぱいである。子どもたちは、当日に遊戯室に入る前から、どのようなことが始まるのか、期待や好奇心でいっぱいであった。目の前の現象に不思議を感じたり、驚いたりして「知らなかった」と、つぶやいていた。自分が「知らなかった」ことを自覚することや「知らない」ことがあるということがわかること、「知らない」ことは楽しい事なのだと感じることは、「ほんまもの」の体験の感動から味わうことができた。そして、その好奇心を今後の子どもたちの探究につなげていくために、頂いた子どもが入ることができる大きなシャボン玉の装置や実験に使っていた道具、自分たちで作ることができるモールなどの材料を環境に用意した。様々に話し合い迷った結果、頂いたシャボン液は出さないことにした。子どもたちが石鹸水づくりで、砂糖や塩を混ぜて工夫し、「片栗粉もいる」「ハチミツも」と探究する姿を大事にしたいと思ったからである。簡単にはシャボン玉ができる液はできないが、教師も共に様々に葛藤しながら、子どもたちが一生懸命に自分たちなりにがんばる姿を見守り、子どもたちの力を信じて待つことにした。

事例② 今までの経験を活かしながら更なる試しを行い、やってみたいことを達成する

幼稚園教育において育みたい資質・能力＜知識及び技能の基礎・思考力、判断力、表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等＞

《 大きなシャボン玉が作りたい 》5歳児 平成30年6月11日（月） W児は自分たちがこれまで遊んでいた場を「シャボン玉研究所」と命名し、①昨日まで作っていた石鹸水を②洗濯のりも加えると再びかき混ぜ、ポイ（輪っか）を持ってきて③膜が張るかどうかを何度も確かめていた。しっかりと膜が張ると息を吹き掛けて④シャボン玉ができるか試し始めた。教師はW児が黙々と試したり考えたりして遊んでいる姿を見守っていた。しばらくして、W児は「⑤先生、見て！大きなシャボン玉ができたよ」と言った。教師が「見せて」と言うと、W児はゆっくりと息を吹いて大きく風船のように膨らませて見せた。教師は「W児ちゃんすごい！大きなシャボン玉ができたね」と⑥W児の喜びに共感すると、嬉しそうに微笑んだ。「どうやったらそんなシャボン玉が作れるの？」と教師が聞くと、「⑦砂糖と塩をちょっとだけ入れて、これ（洗濯のり）も入れて、ふ～ってゆっくり吹くの」と答えた。W児は「ゆっくり吹かないとできないの」と言って、再び大きな風船を作ってみせた。周りにいた友達も「すごい！」と驚き、⑧「やらせて」と言われると嬉しそうに「いいよ」と答えた。W児は周りの友達がポイに膜を張ったり、膜を合わせたりしていることに驚いたり興味をもったりしながら、⑨何度も大きく風船のように膨らませる（シャボン玉を作る）ことを楽しんだ。	〈子どもの心の動き〉 ① 続きをしよう！ ↓（意欲） ② どうなるかな？ ↓（予想・工夫） ③ どうか？ ↓（確かめる） ④ できるかな ↓（試す） ⑤ やった～できた！ ↓（達成感・満足感） ⑥ 嬉しい ↓（喜び・自信） ⑦ わかったよ ↓（発見） ⑧ 嬉しい ↓（喜び・自信） ⑨ もっとしよう！ ↓（意欲）
---	--

事例③ 目的をもって遊び進める中で、法則性に気づく

幼稚園教育において育みたい資質・能力＜知識及び技能の基礎・思考力、判断力、表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等＞

《 （膜が）うつった 》5歳児 平成30年6月21日（木） ①シャボン玉研究所に毎日通っていたX児とY児。砂糖や塩を入れるなど、液を工夫し試していた。しかし、なかなかシャボン玉はできなかった。この日、砂場で遊んでいた教師の所に②「先生見て！」とポイを持って2人が走ってきた。「どうしたの？」と聞くと、③「いくで」と嬉しそうにポイを見せた。X児のポイには膜が張っていて、Y児のポイには膜がなかった。その2つを重ねてゆっくりとずらす。「ほら！④あっ、失敗した。ちょっと待って」とまたシャボン玉研究所に戻り、液をつけて戻ってきた。「見て」ともう一度ポイを重ねて⑤ゆっくりとずらしていくと膜が2つともポイに張った。「すごい！膜ができています」と言う「うつるねん」と嬉しそうに答えた。「そして、こうしたら」と⑥ポイを直角に突き刺して見せる。すると、膜が張ったままになっていた。「そんなこともできたの」と声をかけると「割れへんねん」と嬉しそうに話した。その様子を見てやってきたZ児。「私もしたい」と今度は⑦3人で重ねて膜をうつすことにチャレンジした。ゆっくりとポイをずらしていき「うつった！」と互いのポイに膜が張っていることを喜んでいた。	〈子どもの心の動き〉 ① やってみよう ↓（意欲） ② 一緒にやろう ↓（目的の共有・協力） ③ きっとできる ↓（予想） ④ 次はできる ↓（自信・安定） ⑤ こうなるはず ↓（発見の喜び） ⑥ こうしたらできる ↓（規則性・法則性の発見） ⑦ 一緒にしよう ↓（受容・新しい意欲）
---	--

事例④ 実現したいめあてに向かい、意欲をもって繰り返し取り組む中で、めあてを達成する
 幼稚園教育において育みたい資質・能力＜知識及び技能の基礎・思考力、判断力、表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等＞

《 ふって吹くねん 》5歳児

平成30年7月9日（月）

〈子どもの心の動き〉



a 児、b 児、c 児らは、①毎日友達と一緒に自分なりの液を作ることを楽しんでた。液ができ、②今度はシャボン玉を作ることに挑戦し始めた。牛乳パックを切ったものでも膜が張り、シャボン玉ができるということを発見し、やってみるが、なかなかうまくできなかった。何度も何度も繰り返し息を吹きかけてみる。③ふ～っと息を長くして吹きかけると風船のように膜は膨らんでいくのだが、シャボン玉になる前に割れてしまったり、息が続かなくなってしまったりする。友達と一緒に吹きかけながら、「あっ！できた！」と言うものの、なかなかシャボン玉にはならなかった。けれど繰り返し息を吹きかけている3人。すると、a 児が④ふっと勢いよく息を短く吹きかけると、シャボン玉になって飛んだ。「あっ！⑤シャボン玉できた！」と嬉しそうに喜び合う。そして、b 児が「どうやったん？」と聞くと a 児は「⑥ふって吹いてん」と答えた。b 児「そうなんや」と聞いたことをやってみる。しかし、すぐにはうまくいかずシャボン玉が割れたが、繰り返し試す中で、シャボン玉が飛んだ。⑦「できた！」と嬉しそうに顔を見合う2人。その側でc 児は黙々と吹き続けていた。少しずつコツがわかってきて、シャボン玉が飛ぶようになり、「砂場まで飛んだ」「柵を越えた」と⑧どこまで飛んで行ったかを伝え合う姿も見られた。

- ① やってみよう
↓ (意欲)
- ② 次の段階へ
↓ (新しい目的)
- ③ きっとできるはず
だけど
↓ (試行錯誤)
- ④ これはどうかな
↓ (工夫)
- ⑤ できた
↓ (新しい発見の喜び)
- ⑥ こうしたらいい
↓ (話し合い、協力)
- ⑦ できた
↓ (目的の共有・喜び)
- ⑧ 一緒にしよう
(新しい発見)

[考察]

事例②では、W児は以前から様々な材料を混ぜたり、置いておき続きをして昨日との違いを感じたりして楽しんでたが、シャボン玉実験を見たことから、自分でも大きなシャボン玉を作りたいという思いが膨らんだようであった。自分で試行錯誤しながら作ったり、こうしたいと思い描いたものを形にしたり、全然想像していなかったことが起こったりする面白さが、好奇心をもちやってみようとする姿につながった。シャボン玉にならなくても、風船のように膨らむことが楽しいという姿だった。

事例③では、シャボン玉を作りたいという思いをもち、『膜』の大事さを発見し、どうやったら膜ができるかを考え始めた。その中で、友達と一緒に膜を作ることを楽しみ、膜の特性を感じていた。目的にたどり着くために様々なことを試し、工夫することにつながった。また、繰り返し遊んだことで、規則性を感じ、応用して遊ぶ姿にもつながった。そして、遊びの中で確信をもち、安心して遊び続けることにもつながり、より安定して探究することを楽しめたと考えられる。

事例④では、膜の大切さを感じた上で、シャボン玉を飛ばすために膜に息を吹きかけるということにはわかりつつも、息の加減がつかめなかった。ゆっくり吹くと風船にはなるが、シャボン玉が飛ぶには至らない時期が長かった。しかし、シャボン玉を作って飛ばしたいという明確なめあてがあったことでより集中して試し、工夫する姿につながり、達成できた時の喜びも大きかった。

「ほんまもの」の体験をしたからこそ、よりイメージをもち遊びを進める姿につながった。友達と一緒に目的を共有しやすくなり、友達同士で刺激し合い、より好奇心や探究心をもち遊び続けることができた。西京高等学校の先生たちと「実験」中の子どもたちの姿から「幼児期の好奇心を表現の仕方は変わっても、ずっともち続けることができるようにしたい」という思いを共有することができた。高校のホームページにもその様子や先生方の思いを書িয়েくださっていた。今後も様々に連携していきたい。

3. つなぐ ～子どもの心をつなぐ幼小接続～

平成28年度応募論文より、どんな気づきも受け止めてもらえる、何をやってもいいのだという安心感から好奇心を育んだ3歳児、大好きな友達と思いを認め合いながら気づきを広げていく4歳児、さらに友達とのかかわりを広げ、自分のしたいことを追求していく5歳児の育ちの過程がわかった。1年生d児の生活科の授業の様子から、授業に向き合うために幼児期にどのような経験が基盤となっているのか、幼児期の好奇心や探究心の育ちがどのような姿から見取ることができ、どのように生かされているのか考えたい。

(1) d児の幼児期の好奇心や探究心の育ち

事例① 友達からの提案を受けて思いを実現しようとする5歳児（平成28年度応募論文より抜粋）

幼稚園教育において育みたい資質・能力<知識及び技能の基礎・思考力、判断力、表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等>

《 明日も続きやってみよう 》 平成28年6月7日（火） 絞り袋に興味をもち泡遊びをしているd児。お玉で泡をすくい、絞り袋に入れて絞りだそうとするが、なかなかクリームが出てこない。①搾り方を変えたり、力を加えたりしていると、クリームの袋が破れて一気の周囲にクリームが飛び散った。②「わははは」と周囲の子どもたちから笑いの渦が巻き起こる。d児が③「だってクリームがなかなか出てこなかったんやもん」と話すと、一緒にいたe児が④石鹸入れ過ぎてない？とアドバイスする。⑤泡だけでは出ないと思ったd児は水や粉石鹸の量を調節しながら、何度も試していたが、「なかなかケーキ屋さんみたいなクリームが出来ない」とd児がイメージしているクリームがなかなか出来あがらない。片づけの時間になり、「泡は上手にできたんだけど、また明日続きをするわ」と、道具を洗いに行った。翌日からも泡遊びの場で、d児のクリームづくりの⑥試行錯誤は続いた。	〈子どもの心の動き〉 ① やり方を変える ↓ (工夫) ② おもしろい ↓ (共有) ③ 思いを伝える ↓ (言葉) ④ アドバイスする ↓ (予想) ⑤ わかった ↓ (発見) ⑥ 続ける (諦めない)
見られる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」自立心⑥ 協同性③④⑤ 思考力の芽生え①⑤ 言葉による伝え合い③ 豊かな感性と表現②	

[考察]

d児は自分の思い通りに行かず、これまでの知識を活用して様々に工夫する。しかし、予想もつかないことが起こった。その偶然の出来事を、一緒にしている友達らと、可笑しさを共有できた。d児は以前なら、「笑われた」と思い、遊ぶことができなくなってしまうようなこともあったが、冗談にし、思いを言葉で表現するという育ちが見られた。e児のアドバイスを受け、これまでの経験も関連付けどうすればしようとしていることができるか気づく。自分のしたいことを諦めずに探究し続ける。

(2) 1年生になったd児の授業の様子からとらえた幼児期に育まれた心の育ち

d児がいる1年2組に子どもたちの登校から下校まで授業や生活の様子を参観に行った。4時間目の生活科「おおきなあれ わたしのはな」の授業のd児の様子から考察する。

事例② 自分でじっくり考えてから友達と協同する1年生

幼稚園教育において育みたい資質・能力<知識及び技能の基礎・思考力、判断力、表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等>

《 手を繋いで発表する 》 平成29年8月30日（水） d児は3校時目の体育の後、①着替えを素早く済ませ、生活科の準備を整えた。夏休み前から栽培していたアサガオの変容、成長を確かめるという学習であった。アサガオの種や双葉の写真が出てくると、子どもたちから歓声があがった。黒板にばらばらに張られたそのアサガオの写真を成長の順に並べ替えるという課題、机が隣同士の友達と一緒に考え、発表するということが伝えられた。d児は黒板の写真を見ながら独り言を言い、②アサガオの成長を振り返り、写真の順	〈子どもの心の動き〉 ① 次の準備 ↓ (意欲) ② どうか ↓ (振り返る) ③ 一緒にやろう ↓ (目的の共有)
--	--

を考えている。しかし、隣の女兒と話し合う姿はまだ見られない。そのうち周りの友達が話し合いを終え、二人での発表が始まった。二人で発表しようとしている子どもたちの中には、二人で手を繋ぎ、繋いだ手を挙げている子どももいる。その姿を見て、先生が「二人で繋いだままの手のあがっていますね」とその姿を認める言葉をかけた。すると③その言葉を聞いたd児と隣の女兒は二人で目を合わせ、発表したい意思を確かめ合ったようであった。④二人で顔を寄せ何か話し合った後、すぐに⑤繋いだ手を張り切って元気よくあげた。先生がd児と女兒を指名し、二人は黒板の前に出て、⑥一緒に写真を動かし、順番に並べた。そして、みんなのほうをふりかえり⑦「どうですか？」と元気に聞いた。⑧自分たちの発表を友達に認められ、二人は満足そうな表情であった。	④ 確かめる ↓ (言葉の表現) ⑤ 発表したい ↓ (自信) ⑥ わかった ↓ (気づき) ⑦ みんなに聞く ↓ (必要な言葉) ⑧ 嬉しい (満足)
見られる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」健康な心と体① 自立心⑤⑧ 協同性③ 思考力の芽生え② 自然との関わり・生命尊重⑥ 言葉による伝え合い④⑦	

[考察]

d児が準備をしている様子から意欲が感じられた。また、幼児期より自分で興味をもったことにはじっくりと考え、自分なりの表現をしていた。d児が興味をもったことに家庭でも幼稚園でもじっくりかかわる時間を保証してきたことや、d児の発見や気づきを保護者や教師が丁寧に認めてきたことが大きく影響していると考えられる。そんなd児のじっくり考えるよさがこの生活科の授業においても、発揮されている。アサガオの写真を見て、まずは自分なりにじっくり考える時間がd児には必要であり、その考えを友達と協同して発表するには、自信をもって自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞こうとしたりする姿勢が必要である。d児が幼児期にいろいろな事象に興味をもち、自分のペースでかかわり、試し、感じ、考えてきたことが小学校での学習においても自ら考え、友達と協同しながら表現するということにつながっていると考えられる。

[事例よりとらえた授業に向き合うための幼児期に基盤となる経験]

- ①見通しをもち、必要感をもって自分でしようとする生活習慣の自立（健康な心と体）
- ②自分のしたい事を自分なりにじっくりする経験（思考力の芽生え）
- ③友達に思いを伝えて一緒にやってみようとする経験（協同性）
- ④友達の思いを聞いたり、自分の思いを友達に伝えたりしようとする気持ち（言葉による伝え合い）
- ⑤自分のしたいことを自信をもってしようとする経験（自立心）
- ⑥様々な栽培や飼育などに興味をもってかかわろうとする経験（自然との関わり・生命尊重）
- ⑦学級で集って話したり人の話を聞いたりする経験（言葉による伝え合い）
- ⑧友達に思いを受け入れてもらう嬉しさ（自立心）

（３） 小学校教員との協議より

- ・ 幼稚園では一人一人が育つ姿のめあてを決めながら、子どもから気持ちが向くことを待ち、そのための環境づくり人間関係づくりを丁寧にされている。学校は待つ時間はないと思っていたが、子どもの育ちは時間だけではない、育つことを信じて保護者と共に子どもを待つことを大事に保護者に伝えていきたい。
- ・ 小学校の生活では、前日までに時間割がわかり、見通しをもって準備する。学習の準備をすることで、期待感をもって授業に臨んでいる。
- ・ 小学校の今の授業では、2，3人組で話を出し合うことをしている。自分の花だけでなく、友達の花にも関心をもってほしいと二人組で話し合い、発表するようにした。学習も友達関係でも今はとても自信のある状態で過ごしている。
- ・ 幼児期の事例から、自分の好きなことをしっかり自分でやっていくということを保証していたことがわかる。それが小学校に入ってぐんと伸びていっている。

Ⅲ. まとめ

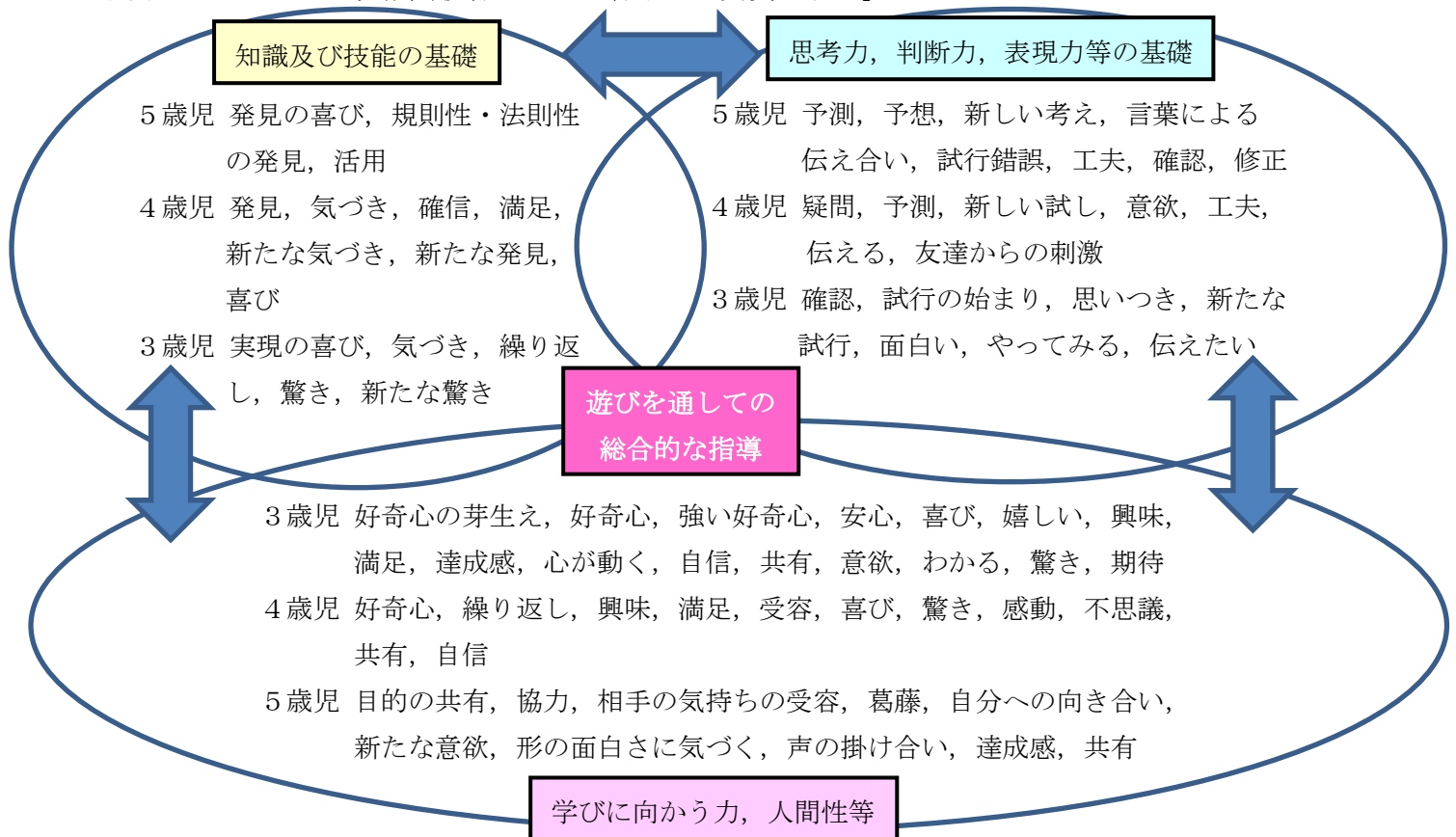
1. 実践の全体考察

(1) とらえる

<事例よりとらえた子どもの心の動き>

< 3 歳児 >	< 4 歳児 >	< 5 歳児 >
① 何? ↓ (興味)		
② やってみたい ↓ (好奇心)	① やってみたい ↓ (好奇心)	① やってみよう ↓ (意欲)
③ やってみよう ↓ (試行の始まり)	② できた ↓ (満足・共有)	② きっとできる ↓ (予測)
④ できた・面白い ↓ (満足)	③ もう一回 ↓ (意欲)	③ 一緒にやろう ↓ (目的の共有・協力)
⑤ 何度もする (繰り返す)	④ わかった ↓ (受容・自信)	④ できた ↓ (発見の喜び)
	⑤ そうなんだ ↓ (気づき)	⑤ 次はこうしてみよう ↓ (新たな意欲)
	⑥ これはどうかな (新たな試し)	⑥ こうしてみよう ↓ (試行錯誤・工夫)
		⑦ こうしたらこうなる ↓ (規則性・法則性の発見)
		⑧ やった (達成感・共有)

<事例よりとらえた「幼稚園教育において育みたい資質・能力」>



<心の動きからみる好奇心や探究心の育ちと環境構成と教師の援助について>

〔3歳児〕 一人一人の心の動きがそれぞれ違い、興味をもち始めたり、好奇心が満たされたり満たされなかったりすることも、ばらばらであった。一人一人違う心の動きを認めていくことこそが、3歳児への大切な援助である。興味をもった環境にかかわろうとして立ち上がった好奇心は、教師が表情や行動から何に興味をもっているのかを見取り、その思いを認めたり、言葉にして確かなものにしたり、モデルとなってやってみたりすることで、動き出す。子どもがかかわるための環境として、すぐ見て様子がわかる用具や容器、予想と違うことや偶発的にことが起こる多様な可能性をもった環境が大事である。

〔4歳児〕 心の動きは、友達への発信や共感、教師の認めによって様々に動き深まることがわかった。教師が安心・安定の場となることはもちろん、仲間となって一緒に遊ぶことでより遊びが楽しくなる。教師に思いや、していることを受け止め、認めてもらったり、一緒に驚きや疑問・感動して共感してもらったりすることで、満足感や達成感、自信を感じ、さらに意欲をもって遊びを深めていく。そして、4歳児は友達の存在もとても大事になってくる。楽しそうに遊ぶ教師や友達の姿に興味をもって集まり、一緒にやってみたり自分なりに遊びに取り入れて新たな試しをしたりと、友達とのかかわりや刺激も生まれてくることが改めてわかった。

〔5歳児〕 一緒に集っている友達と、言葉で思いを伝え合い、目的を共有し、互いの心の動きに関心を寄せ同調しながら、心の動きを共有していくことがわかった。また、5歳児は前日の振り返りをしたり、これまでの経験を様々に関連付けたりすることで、遊び始める前から、好奇心を持続させていることがわかった。自分の思いと一緒に遊んでいない友達に一日の遊びを振り返る時に伝えたり、また、聞いて想像し、自分の思いを伝えたり、自分の予想や目的を共有、役割分担をするのに声を掛けたりなど、言葉の育ちが大きい。教師は互いが言葉で伝えようとすることを支え、つないでいく事が大事な援助である。

<「幼稚園教育において育みたい資質・能力」からみる好奇心や探究心の育ちについて>

〔3歳児〕 特に「資質・能力」が子どもたちの心の中で一体となっていることがわかった。好奇心をもって環境にかかわり繰り返す中で、好奇心が満たされ、さらに自分なりにしたいことをしている（「学びに向かう力、人間性等」）結果、無自覚に試行したり（「思考力、判断力、表現力の基礎」）、気づいたり、わかったり（「知識及び技能の基礎」）を繰り返し、好奇心や探究心が育まれていくことがわかった。それをどのように見取り、無自覚な気づきを自覚できるように子どもに認めていくのか、今は無自覚のままでもいいのか、その時々の子どもの様子や願い、雰囲気などから個々に応じて教師がとらえてかかわっていることがわかった。

〔4歳児〕 試したことができた満足感や達成感が、さらにまたやってみたいと意欲（「学びに向かう力、人間性等」）を生み、自分なりの試しを繰り返す（「思考力、判断力、表現力の基礎」）。この「試し」を教師や友達が共感してくれることが自信となり（「学びに向かう力、人間性等」）、新たな気づきや発見をしたり（「知識及び技能の基礎」）、偶然起こった事象に心を動かし、新たな試しをやってみたくなったりする（「思考力、判断力、表現力の基礎」）。そのような経験の繰り返しが好奇心や探究心を育む。

〔5歳児〕 ある程度の予想や予測を立てて（「思考力、判断力、表現力等の基礎」）遊び始めていることがわかった。その中で、予想と結果を受け止めた上で、自分なりに振り返って次の目的をもったり、友達からの新しい考えや刺激を受けて遊びを進めたりしていく（「学びに向かう力、人間性等」）。友達と共に目的を共有して遊びを進めたり、考えたことや気づいたことを伝え合ったりすることで、より考えたり工夫したりする姿へとつながり（「思考力、判断力、表現力等の基礎」）、繰り返し遊ぶ中で、子どもたちなりに遊びの法則性や規則性を発見し（「知識及び技能の基礎」）、発見したことを積み重ねたり応用し（「思考力、判断力、表現力等の基礎」）、友達と達成時に共に喜び合ったり、次の目的を見つけ出したり（「学びに向かう力、人間性等」）を繰り返し、好奇心や探究心を育んでいくことがわかった。

(2) 共に創る

<子どもの心の動きから>

- | | | |
|---|-----------|-------------|
| ① | そうなんだ | ↓ (初めて知る興味) |
| ② | こうなっているのだ | ↓ (知る・発見) |
| ③ | 伝えたい | ↓ (言葉による表現) |
| ④ | やってみたい | ↓ (再現の喜び) |
| ⑤ | どうなるかな | (試し) |

学校運営協議会「もえぎティンクル」や地域の高等学校の協力により、ゲストティーチャーを招いて「ほんまもの」の体験をすることができた。子どもの心の動きは、前日の準備や継続した遊びや生活、自分たちの必要感から、ゲストティーチャーとの出会いや体験に期待感をもって臨んでいた。自分たちの目の前で繰り広げられる未知の初体験に興味をもち（「学びに向かう力、人間性等」）、新たなことを発見し（「知識及び技能の基礎」）、その喜びを言葉によって伝えようとしたり、自分のものとして取り込み試そうとしたりする（「思考力、判断力、表現力等の基礎」）。

<環境構成、教師の援助のポイント>

・今回、ゲストティーチャーの専門性から様々に提案いただき、「ほんまもの」の体験ができた。子どもの様子や願いを伝え、互いが専門的な立場

で共に考える熱い思いこそが、互いを知り合い、願いを共有し、子どもを共に育むことにつながる。子どもの遊びを大事に見通しをもって計画することや、ゲストティーチャーの思い、感謝の気持ちや自分が大事にされている感覚を子どもたちがもつことができるように教師が伝えていくことが大事である。

・ゲストティーチャーと出会い、体験の後に子どもたちは言葉にして思いを伝えたり、見たことを再現しようとしたりしている。体験を生かすことができるように体験のその後が大事である。ドキュメンテーションなどで家庭に伝えたり、自分たちで再現できる環境を用意したりしていくことが大事である。

(3) つなぐ

<d児の好奇心や探究心の連続性について>

[幼児期のd児の事例にみられる「幼稚園教育において育みたい資質・能力」]

自分のしたいことに意欲をもつ、友達と思いを共有する、諦めずに続ける、友達の考えを取り込む、新たな気づきや発見をする喜びを感じる、これまでの経験を関連付ける

[小学校でのd児の姿にみられる「幼稚園教育において育みたい資質・能力」]

自ら意欲的に準備をする、友達と一緒に思いを共有する、満足感を味わう、自分で生活を振り返り考える、わかったことを言葉で伝え合う、わかったことを自覚する、様々な場面に応じた言葉を使う、（「学びに向かう力、人間性等」）

5歳児の好奇心や探究心の育ちから、前日の活動や振り返りから次の日に意欲をもつことで好奇心が育まれることが明らかになったが、小学生のd児は前日に時間割を合わせたり、次の授業の準備をしたりすることからも意欲が感じられた。幼児期に見通しをもって遊び、次への期待をもって遊んでいたことがこのような姿につながっていると思われる。また、幼児期のd児は3歳児で教師と4歳児で大好きな友達と5歳児でそれまであまりかかわることなかった友達とのかかわりを楽しんできた。小学生になり、短期間で隣の席の児童と一緒に思いを共有できるのは幼児期からの育ちが連続していると考えられる。

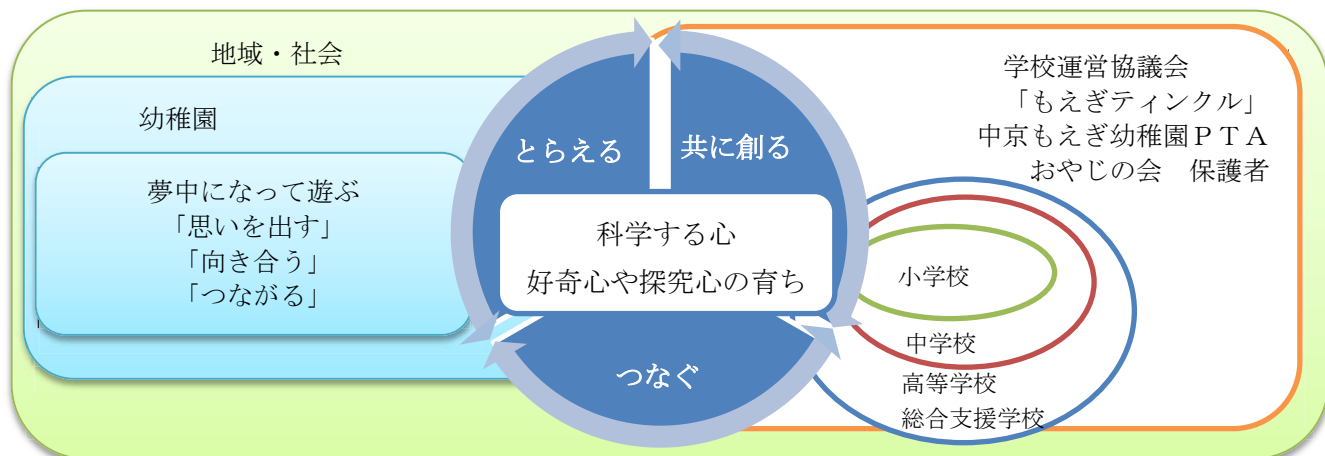
（「思考力、判断力、表現力等の基礎」）

小学生のd児は育ててきたアサガオの長い期間の経験を振り返り、言葉で表現していた。5歳児の好奇心や探究心の育ちでみられた、友達と活動を振り返り自分の思いを伝えることの大事さを感じる。

（「知識及び技能の基礎」）

5歳児のd児の事例から自分のめあてに対して友達の思いを聞くことで気づきとなる姿が見られたが、小学生のd児は体験を振り返り、学級の皆に伝えることでわかったことが明確になった。幼児期には「資質・能力」が一体となっているが、d児の姿から体験が知識となっていく過程を見て取ることができた。

(4) まとめ



これまでも地域や学校運営協議会「もえぎティンクル」の協力で伝統文化などの「ほんまもの」の体験を保育に取り入れてきたが、科学する心を育む「ほんまもの」の体験が子どもたちの豊かな遊びを創り出し、好奇心や探究心を育むことが明らかになった。視点をもって子どもの心をくとりえる>こと、学校運営協議会「もえぎティンクル」や地域とく共に創る>こと、子どもの心の育ちをくつなぐ>ことを繰り返し、循環の中で、子どもたちにとって豊かな体験が生まれ科学する心が育まれることがわかった。科学での「ほんまもの」の体験をさせてやりたいという私たちの願いを叶えてくださったゲストティーチャーの方々には、多忙な中、子どもたちのために力を尽くしてくださり、感謝しかない。地域や学校運営協議会「もえぎティンクル」、地域の学校、保護者との積み重なった協力体制と信頼関係の有難さと大事さを改めて感じた。

2. 考察に基づく課題と今後の方向性・計画

<教育課程の見直し>

地域や学校運営協議会「もえぎティンクル」、保護者との協力のもと、を子どもたちの実態や願いより、「ほんまもの」の体験や、地域の資源を活用した保育をさらに充実させる。また、教育活動に位置付け、教育課程を見直していく。

<子どもの育ちや願いの発信、共有>

地域や学校運営協議会「もえぎティンクル」、保護者が教育に参画することは、互いにとって豊かな経験となり、子どもたちの姿、育ちや願いを発信することにつながった。さらに、子どもたちが地域の担い手として育つために、幼稚園としての役割や願いを確認し合い、共有していきたい。

<子どもの心の育ちの連続性>

子どもの心の育ちを連続して一体として共に育む思いをもち子どもを見ていくことの重要性を確認できたことは大きな成果であった。それを、今後、互いにどのように生かしていくか、また、入園前の未就園児からの連続性や、高等学校の総合的な探究の時間などとの連携、家庭、預かり保育との連続性など、様々な可能性の広がりが考えられ、探ってきたい。

参考文献 平成28年度 ソニー幼児教育プログラム本園応募論文

無藤隆編著 「10の姿プラス5・実践解説書」ひかりのくに株式会社 2018年

京都市子育て支援総合センターこどもみらい館 「保幼小連携・接続ハンドブック」2018年

京都市立中京もえぎ幼稚園 平成18年度研究紀要第4集 平成28年度研究紀要第12集

研究代表・米村洋子 研究同人・小野寺由起・木下綾夏・久保田美和・小林慶子・小林雅子・小林滢佳・榊菜摘・多田美里・中東静香・外薮知子・松尾香奈子・村上奈那子・村山里奈・森希美子